



# 僕にとっての募金

道仏中学校 2年 佐藤優剛

小学校のころの僕は、募金に対してあまり関心がありませんでした。ただ、小学校低学年のころの疑問は、「なんでみんな募金するのだろう」ということでした。自分がもらえるわけでないのに、みんなが募金箱にお金を入れて、それと引き替えに赤いきれいな羽をもらっているのを不思議に思っていました。

それでも高学年になると、少しずつ募金の大切さがわかってきました。募金は災害にあった人たちのためにあるということや、募金されたお金が知らず知らずのうちに僕たちの暮らしを豊かにすることにつながるようになりました。

学校の募金だけでなく、地域の人たちでも募金していることを知り、募金は大切なことだと学ぶことができました。

中学生になっても、僕は募金を少しずつ続けています。ある日スーパーに行くとき、募金する箱を見つけました。それは、僕にとっての募金。それは、東日本大震災の復興のための募金だったので、僕はすごいと思いました。

災害復興のためのお金は、僕たちが想像できないくらい沢山の金額が必要です。でも、その地域以外の人や、自分に関係ないと思わずに、少しずつ寄付していく事は、長い時間にはなりますが、ずっとその地域に「がんばってください!」というエールを送り続けていくことだと思います。いつどこでだれか、そういう目にあうともわかりません。思いやりの気持ちを発信していれば、自分達が困ったとき、きっと誰かが手助けしてくれると、僕は考えます。だから、みんながそのことを理解し、みんなが進んで募金していく環境づくりをすることがいいと思いました。

以前の僕は、募金の大切さを知らない側の人間でした。けれども、小さい頃から募金と触れ合うことによって、自然に募金の意味を知るようになりました。子供も大人も募金の意味を知り、互いに協力しあいながら活動を進めることが今本当に大切なことだと思います。

僕にとっての募金とは、未来の社会のために役立ちたいという、気持ちを精一杯にあらわした姿です。僕はこれからも、募金活動に参加していきたいです。